

## 単元名 演奏のみりよく

配当時間 4時間

- 単元の目標 (1) 曲想と強弱など音楽の構造との関わりについて理解するとともに、各声部の歌声や伴奏、全体の響きを聴きながら歌う技能を身に付けることができる。
- (2) 旋律や音の重なりを聴き取り、それらの働きが生み出すやさしさや美しさ、面白さを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲の特徴にふさわしい表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもつことができる。
- (3) 演奏者の思いを感じ取ることに興味をもち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に学習活動に取り組もうとする。

## 標準的な展開例

06070104\_001

【教材名】交響曲第5番「運命」第1楽章から（鑑賞） ぼくらの日々（歌唱） (P.14～P.17)

【準備等】鑑賞CD、範唱CD、ワークシート

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1～2 「交響曲第5番『運命』第1楽章から」を表現の多彩さに着目して聴く。</p> <p>★思いを生かした表現のみりよくを感じ取ろう</p> <p>○「交響曲第5番『運命』第1楽章から」を鑑賞する。</p> <p>○オーケストラとその音楽について復習・確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・形式や演奏の仕方を理解し、オーケストラの楽器の名前や配置を確認する。</li> <li>・オーケストラのスコアを見ながら、どんな楽器が使われているのか確認する。</li> </ul> <p>○スコアを見て「タタタターン」の音型を探しながら冒頭部分を聴く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・最初はいくつかの楽器と一緒に演奏し、その後は少しずつ追い掛けながら演奏されることに気付く。</li> <li>・強弱や速度の変化に気付く。</li> </ul> <p>○ベートーベンについて知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生い立ちや他の作品について知る。</li> </ul> <p>○交響曲第5番「運命」第1楽章の冒頭を、数種類鑑賞する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「タタタターン」の音型や速度、強弱に注意して聴いていく。</li> <li>・演奏ごとに気付いたことをメモし、発表する。</li> </ul> <p>○交響曲第5番「運命」第1楽章全体を演奏表現に気を付けて聴く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・この指揮者の演奏の特徴について、気付いたことをメモしながら聴く。</li> <li>・気付いた特徴や、よいと思ったところについて意見を伝え合う。</li> </ul>	<p>・指揮者による表現の違いや感想などを書き込めるワークシートを用意する。</p> <p>・曲の冒頭を意識して聴かせるようにする。この「運命」という通称は、ベートーベンの弟子の「冒頭の四つの音は何を示すのか」という質問に対し「運命はこのように扉をたたく」とベートーベンが答えたことに由来するという説もある。</p> <p>・教科書の写真や挿絵を活用し、楽器の形や表現の方法などが分かるようにさせる。映像資料があるとよい。</p> <p>・スコアは楽器の種類（木管楽器、金管楽器など）ごとにまとまっていること、教科書では種類ごとに色分けしてあることを伝えるとよい。</p> <p>・「まなびリンク」の動画を活用してもよい。</p> <p>【評】曲想と強弱など音楽の構造とを関わらせながら聴く活動を通して「知識」を評価する</p> <p>・写真や伝記、インターネットを活用してもよい。</p> <p>・難聴に悩んでいたことや、「喜びの歌」「エリーゼのために」「トルコ行進曲」など児童がよく知っている曲を紹介してもよい。</p> <p>・2, 3人の指揮者の「運命」の冒頭部分を聴かせる。次に順番を変えて演奏を聴かせ、どの指揮者によるものか当てさせる。速さやフェルマータの長さなど聴くポイントを指示しておく。</p> <p>・速度や強弱などを手掛かりに、想像したことや感じたことをワークシートに記入させる。</p> <p>・指揮をしながら演奏を聴かせると、表現の違いを感覚的に捉えやすくなる。</p> <p>【共通事項】速度 強弱</p> <p>・他に聴いた演奏との比較も踏まえて聴くようにさせる。</p> <p>【評】演奏者の思いを感じ取りながら聴く活動を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p>
<p>3～4 「ぼくらの日々」の曲想を生かして、表情豊かに歌う</p> <p>★思いや意図を大切にしながら、みんなで表現をくふうしよう</p> <p>○範唱を聴いて、楽曲の感じをつかむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・曲想を感じ取り、主旋律を歌う。</li> <li>・演奏順序を確認し、歌詞唱する。</li> <li>・歌詞を朗読して、言葉の抑揚を確かめる。</li> <li>・言葉のイメージや、いいなと思ったところを出し合う</li> </ul> <p>○曲の特徴を捉え、イメージを共有して歌う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・曲について出た意見を確かめながら歌う。</li> <li>・楽譜を見て、記号と強弱の変化、速度、歌詞と旋律の関係、伴奏の効果、盛り上がりなど、気付いたことを話</li> </ul>	<p>・フレーズ感を大切にして、楽曲の構成を確認しながら歌うと音がとりやすい。</p> <p>・言葉を大切にするために、子音を意識して歌うようにさせる。</p> <p>・旋律の動きや強弱の変化と、盛り上がりとの関係に気付くようにする。</p> <p>【共通事項】旋律 強弱</p>

し合う。

- ・作者の思いを考える。

○下声部やオブリガートを捉え、二部合唱をする。

- ・各声部を練習する。
- ・二部合唱をする。

○各声部に分かれて練習する。

- ・自分の声に合ったパートを選び、跳躍など音程の取りにくいところを丁寧に練習する。
- ・言葉を大切にしながら歌う。

○自分たちの表現を目指して合唱する。

- ・伴奏を聴きながら歌う。
- ・アイウエごとに、パートがどのように関わり合っているか確認して歌う。
- ・和音の響きや音の重なり方の変化など、曲の仕組みや特徴を捉えて歌う。
- ・演奏を録音して聴くなどして、よりよい合唱にするために話し合う。
- ・よく聴き合って、さらにまとまりのあるアンサンブルにするために、出た意見を合唱に反映する。

- ・二部に分かれる音を取り出して、一音一音伸ばして歌い、響きを確かめさせる。
- ・「ルル～」では、口の中を広くし、声の出し方に気を付けて歌うと、響きのある声につながるができる。

【資料】オブリガート…主旋律を彩る対旋律、助奏のこと

【評】各声部の歌声や伴奏、全体の響きを聴きながら歌う活動を通して「技能」を評価する

- ・変声期なども踏まえ、声の出しやすい声部を選ぶようにする。
- ・パート練習でも伴奏を聴きながら、ハーモニーの中で音を取るようにする。
- ・バランスのよい調和した響きを目指すようにさせる。

【共通事項】音楽の縦と横との関係

【評】旋律や音の重なりを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや美しさ、面白さを感じ取りながら、曲想にふさわしい表現を工夫する活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。

【 備 考 】